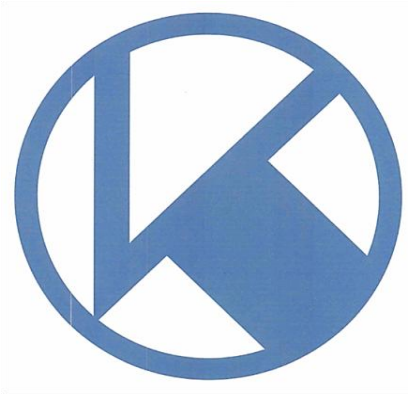
2026年度

# 郡山健康科学専門学校
# 講義概要



## 理学療法学科
## 4年生

学校法人こおりやま東都学園

# 専門分野

| 【科目名】 | 【担当教員】 | 【科目責任者】 |
|---|---|---|
| 理学療法研究法(1/2) | 学科教員 | 佐久間 |

| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学科 | 4 | 前期 | 30(60) | 講義 | 2 |

【授業の概要・目的】

グループ学習・演習を通して臨床実習に必要な基礎知識および技能を修得する. 専門基礎分野, 基礎3科目(解剖学・生理学・運動学)の基礎学力向上を図る.

【学習目標(到達目標)】

①臨床実習に向けた基礎学力の充実を図る.

②各試験にて70%以上の正答率を獲得する.

【受講して得られる力】

専門職としてのスキル・意識

コミュンケーションスキル

態度・志向性

問題解決力

【履修上の注意】 特になし

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 解剖生理学—植物機能(1) | 循環器系の解剖・生理を復習する | グループ |
| 2 | 解剖生理学—植物機能(2) | 循環器系の解剖・生理を復習する | グループ |
| 3 | 解剖生理学—植物機能(3) | 消化器系, 泌尿器系の解剖・生理を復習する | グループ |
| 4 | 解剖生理学—植物機能(4) | 消化器系, 泌尿器系の解剖・生理を復習する | グループ |
| 5 | 解剖生理学—植物機能(5) | 呼吸器系の解剖・生理を復習する | グループ |
| 6 | 解剖生理学—植物機能(6) | 呼吸器系の解剖・生理を復習する | グループ |
| 7 | 解剖生理学—植物機能(7) | 代謝, 内分泌系, 発生と組織の復習をする | グループ |
| 8 | 解剖生理学—植物機能(8) | 代謝, 内分泌系, 発生と組織の復習をする | グループ |
| 9 | 解剖生理学—動物機能(1) | 中枢神経の解剖・生理を復習する | グループ |
| 10 | 解剖生理学—動物機能(2) | 中枢神経の解剖・生理を復習する | グループ |
| 11 | 解剖生理学—動物機能(3) | 中枢神経の解剖・生理を復習する | グループ |
| 12 | 解剖生理学—動物機能(4) | 末梢神経の解剖・生理を復習する | グループ |
| 13 | 解剖生理学—動物機能(5) | 末梢神経の解剖・生理を復習する | グループ |
| 14 | 解剖生理学—動物機能(6) | 骨格筋の構造・筋収縮の生理・反射を復習する | グループ |
| 15 | 解剖生理学—動物機能(7) | 感覚受容器, 感覚器の構造と機能, 伝導路の復習をする | グループ |

| 期末試験 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|
| 実施しない | 筆記試験 50% | 課題の達成度 30% | |
| | 受講態度 20% | | |

| | |
|---|---|
| 【教科書】 | 特に指定しない. |
| 【参考書】 | PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野基礎医学・臨床医学 (医歯薬出版)<br>クエスチョン・バンク 理学療法士 国家試験問題解説2027 共通問題・専門問題 |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【本講義に関しての質問先】 | 担当教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |

| 【科目名】 | 【担当教員】 | 【科目責任者】 |
|---|---|---|
| 理学療法研究法(2/2) | 学科教員 | 佐久間 |

| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学科 | 4 | 前期 | 30(60) | 講義 | 2 |

【授業の概要・目的】

グループ学習・演習を通して臨床実習に必要な基礎知識および技能を修得する. 専門基礎分野, 基礎3科目(解剖学・生理学・運動学)の基礎学力向上を図る.

【学習目標(到達目標)】

①臨床実習に向けた基礎学力の充実を図る.

②各試験にて70%以上の正答率を獲得する.

【受講して得られる力】

専門職としてのスキル・意識

コミュニケーションスキル

態度・志向性

問題解決力

【履修上の注意】

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 解剖生理学—動物機能(8) | 感覚受容器, 感覚器の構造と機能, 伝導路の復習をする | グループ |
| 2 | 運動機能学(1) | 骨の構造, 関節, 靭帯の復習をする | グループ |
| 3 | 運動機能学(2) | 骨の構造, 関節, 靭帯の復習をする | グループ |
| 4 | 運動機能学(3) | 上下肢の関節, 手根管, 手部の筋について復習をする | グループ |
| 5 | 運動機能学(4) | 上肢の筋の復習をする | グループ |
| 6 | 運動機能学(5) | 上肢の筋の復習をする | グループ |
| 7 | 運動機能学(6) | 下肢の筋の復習をする | グループ |
| 8 | 運動機能学(7) | 下肢の筋の復習をする | グループ |
| 9 | 運動機能学(8) | 正常歩行について復習をする | グループ |
| 10 | 理学療法治療学—基本介入手段(1) | 運動療法の生理学的作用を理解し, 基本的介入手段を実践できる<br>筋力増強運動, 他動運動 | グループ |
| 11 | 理学療法治療学—基本介入手段(2) | 運動療法の生理学的作用を理解し, 基本的介入手段を実践できる<br>関節可動域訓練, 伸張訓練 | グループ |
| 12 | 理学療法治療学—基本介入手段(3) | 運動療法の生理学的作用を理解し, 基本的介入手段を実践できる<br>疾患別運動療法, 介入戦略, 運動学習 | グループ |
| 13 | 理学療法治療学—基本介入手段(4) | 物理療法の使用方法, 適応, 禁忌等について復習する<br>温熱療法, 低周波療法 | グループ |
| 14 | 理学療法治療学—基本介入手段(5) | 日常生活活動と生活環境論について復習する<br>ADL評価, リハ関連機器 | グループ |
| 15 | 理学療法治療学—基本介入手段(6) | 補装具療法について復習する<br>KAFO・AFOのチェックアウト | グループ |

| 期末試験 | 評価方法 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 実施しない | 受講態度 | 20% | 課題の達成度 | 30% |
| | 筆記試験 | 50% | | |

| | |
|---|---|
| 【教科書】 | 特に指定しない. |
| 【参考書】 | PT/OT国家試験必修ポイント ・基礎PT学・障害別PT治療学 (医歯薬出版)<br>PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・臨床医学編(改訂第2版) |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

| 【本講義に関しての質問先】 | 担当教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |
|---|---|---|---|

| 【科目名】 | 【担当教員】 | 【科目責任者】 |
|---|---|---|
| 理学療法マネージメント論<br>※ 実務経験のある教員の授業科目 | 佐久間　朋子<br>病院(理学療法士)14年勤務 | 佐久間 |

| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学科 | 4 | 前期 | 15(30) | 講義 | 1 |

【授業の概要・目的】

事例を検証することで新たな考え方を模索します．生活機能をICFの観点で整理し患者像を把握し，問題点抽出・目標設定を行います．

【学習目標(到達目標)】

①選択した事例から患者像把握，問題点抽出，目標設定できる．
②ボトムアップ・トップダウン双方の考えによる思考の違いを理解し説明できる．
③現状から目標に向けての道筋を立案できる．

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
情報活用能力
態度・志向性

【履修上の注意】 特になし

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要，すすめ方について理解する． | 個人・グループ |
| 2 | 事例検討① | 対象事例を振り返ることで，課題の達成を妨げている要因や原因を明らかにする方法を検討し，説明する． | 個人・グループ |
| 3 | 事例検討② | 患者(利用者)の豊かな生活，継続的な支援を実現するには何が必要なのかを考え，説明する． | 個人・グループ |
| 4 | 事例検討③ | 関係機関・専門職種との連携・協力・協働関係の築きに視点を向け，多職種連携について理解する． | 個人・グループ |
| 5 | 事例検討④ | 理学療法の課題を発見し，地域のネットワークや社会資源の構築の方法を検討し，説明する． | 個人・グループ |
| 6 | 事例検討⑤ | 当事者中心の医療を実践するために，必要な情報の収集・活用方法について検討し，説明する． | 個人・グループ |
| 7 | 事例発表会 | まとめた事例についてグループごとに発表する． | 個人・グループ |
| 8 | 総合臨床実習に向けて① | 治療プログラム立案について学ぶ．<br>必要な情報収集 | 個人・グループ |
| 9 | 総合臨床実習に向けて② | 治療プログラム立案について学ぶ．<br>必要な情報収集 | 個人・グループ |
| 10 | 総合臨床実習に向けて③ | 治療プログラム立案について学ぶ．<br>必要な情報収集 | 個人・グループ |
| 11 | 疾患別マネジメント | 疾患別のマネジメントについて学ぶ． | 個人・グループ |
| 12 | 病期別マネジメント | 病期別のマネジメントについて学ぶ． | 個人・グループ |
| 13 | 事例の振り返り① | 治療プログラム立案に基づき事例を振り返る． | 個人・グループ |
| 14 | 事例の振り返り② | 治療プログラム立案に基づき事例を振り返る． | 個人・グループ |
| 15 | まとめ | ICFに基づいた患者像の捉え方について再考する． | 個人・グループ |

| 期末試験 | 実施しない | 評価方法 | 受講態度 50%<br>課題の達成度 50% |
|---|---|---|---|

| 【教科書】 | 特に指定なし． |
|---|---|
| 【参考書】 | 講義の中で適宜紹介します． |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 3年次までに学んできたことを復習して講義に臨んでください．

| 【本講義に関しての質問先】 | 担当教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |
|---|---|---|---|

| 【科目名】 | 【担当教員】 | 【科目責任者】 |
|---|---|---|
| 総合演習(1/5) | 学科教員 | 佐久間 |

| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学科 | 4 | 後期 | 75(150) | 演習 | 5 |

【授業の概要・目的】

グループ学習を通し，理学療法における知識と技術，及び臨床的思考確立の集大成とする．本講義には卒業試験が含まれる．

【学習目標(到達目標)】

①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る．

②理学療法における臨床思考を確立する．

③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す

【受講して得られる力】

知識・理解

コミュンケーションスキル

情報活用能力

専門職としてのｽｷﾙ・意識

問題解決力

【履修上の注意】

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎医学 | 解剖学の知識の整理 | グループ |
| 2 | 基礎医学 | 解剖学の知識の整理 | グループ |
| 3 | 基礎医学 | 解剖学の知識の整理 | グループ |
| 4 | 基礎医学 | 解剖学の知識の整理 | グループ |
| 5 | 基礎医学 | 解剖学の知識の整理 | グループ |
| 6 | 基礎医学 | 運動学の知識の整理 | グループ |
| 7 | 基礎医学 | 運動学の知識の整理 | グループ |
| 8 | 基礎医学 | 運動学の知識の整理 | グループ |
| 9 | 基礎医学 | 運動学の知識の整理 | グループ |
| 10 | 基礎医学 | 運動学の知識の整理 | グループ |
| 11 | 基礎医学 | 生理学の知識の整理 | グループ |
| 12 | 基礎医学 | 生理学の知識の整理 | グループ |
| 13 | 基礎医学 | 生理学の知識の整理 | グループ |
| 14 | 基礎医学 | 生理学の知識の整理 | グループ |
| 15 | 小テスト | 基礎医学に関する理解度を確認する． | グループ |

| 期末試験 | 実施しない | 評価方法 | 筆記試験 100%<br>(卒業試験) | |
|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 【教科書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |
| 【参考書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

| 【本講義に関しての質問先】 | 学科教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |
|---|---|---|---|

| 【科目名】 | 【担当教員】 | 【科目責任者】 |
|---|---|---|
| 総合演習(2/5) | 学科教員 | 佐久間 |

| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学科 | 4 | 後期 | 75(150) | 演習 | 5 |

【授業の概要・目的】

グループ学習を通し，理学療法における知識と技術，及び臨床的思考確立の集大成とする．本講義には卒業試験が含まれる．

| 【学習目標(到達目標)】 | 【受講して得られる力】 |
|---|---|
| ①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る．<br>②理学療法における臨床思考を確立する．<br>③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す | 知識・理解<br>コミュニケーションスキル<br>情報活用能力<br>専門職としてのｽｷﾙ・意識<br>問題解決力 |

【履修上の注意】

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 臨床医学 | 病理学の知識の整理 | グループ |
| 2 | 臨床医学 | 病理学の知識の整理 | グループ |
| 3 | 臨床医学 | 内科学の知識の整理 | グループ |
| 4 | 臨床医学 | 内科学の知識の整理 | グループ |
| 5 | 臨床医学 | 内科学の知識の整理 | グループ |
| 6 | 臨床医学 | 整形外科学の知識の整理 | グループ |
| 7 | 臨床医学 | 整形外科学の知識の整理 | グループ |
| 8 | 臨床医学 | 整形外科学の知識の整理 | グループ |
| 9 | 臨床医学 | 神経内科学の知識の整理 | グループ |
| 10 | 臨床医学 | 神経内科学の知識の整理 | グループ |
| 11 | 臨床医学 | 神経内科学の知識の整理 | グループ |
| 12 | 臨床医学 | 神経内科学の知識の整理 | グループ |
| 13 | 臨床医学 | 臨床心理学の知識の整理 | グループ |
| 14 | 臨床医学 | 精神医学の知識の整理 | グループ |
| 15 | 小テスト | 基礎医学に関する理解度を確認する． | グループ |

| 期末試験 | 実施しない | 評価方法 | 筆記試験 100%<br>(卒業試験) | |
|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 【教科書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |
| 【参考書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

| 【本講義に関しての質問先】 | 学科教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |
|---|---|---|---|

| 【科目名】 | 【担当教員】 | 【科目責任者】 |
|---|---|---|
| 総合演習(3/5) | 学科教員 | 佐久間 |

| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学科 | 4 | 後期 | 75(150) | 演習 | 5 |

【授業の概要・目的】

グループ学習を通し，理学療法における知識と技術，及び臨床的思考確立の集大成とする．本講義には卒業試験が含まれる．

【学習目標(到達目標)】

①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る．

②理学療法における臨床思考を確立する．

③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す

【受講して得られる力】

知識・理解

コミュンケーションスキル

情報活用能力

専門職としてのｽｷﾙ・意識

問題解決力

【履修上の注意】

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎理学療法学 | 理学療法基礎の知識の整理 | グループ |
| 2 | 基礎理学療法学 | 理学療法基礎の知識の整理 | グループ |
| 3 | 基礎理学療法学 | 理学療法基礎の知識の整理 | グループ |
| 4 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 5 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 6 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 7 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 8 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 9 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 10 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 11 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 12 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 13 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 14 | 基礎理学療法学 | 理学療法評価学の知識の整理 | グループ |
| 15 | 小テスト | 基礎理学療法学に関する理解度を確認する． | グループ |

| 期末試験 | 卒業試験にて判定する | 評価方法 | 筆記試験 100%<br>(卒業試験) | |
|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 【教科書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |
| 【参考書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

| 【本講義に関しての質問先】 | 学科教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |
|---|---|---|---|

| 【科目名】 | 【担当教員】 | 【科目責任者】 |
|---|---|---|
| 総合演習(4/5) | 学科教員 | 佐久間 |

| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学科 | 4 | 後期 | 75(150) | 演習 | 5 |

【授業の概要・目的】

グループ学習を通し，理学療法における知識と技術，及び臨床的思考確立の集大成とする．本講義には卒業試験が含まれる．

| 【学習目標(到達目標)】 | 【受講して得られる力】 |
|---|---|
| ①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る．<br>②理学療法における臨床思考を確立する．<br>③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す | 知識・理解<br>コミュニケーションスキル<br>情報活用能力<br>専門職としてのｽｷﾙ・意識<br>問題解決力 |

【履修上の注意】

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 理学療法治療学 | 骨関節系障害学の知識の整理 | グループ |
| 2 | 理学療法治療学 | 骨関節系障害学の知識の整理 | グループ |
| 3 | 理学療法治療学 | 骨関節系障害学の知識の整理 | グループ |
| 4 | 理学療法治療学 | 骨関節系障害学の知識の整理 | グループ |
| 5 | 理学療法治療学 | 中枢神経系障害学の知識の整理 | グループ |
| 6 | 理学療法治療学 | 中枢神経系障害学の知識の整理 | グループ |
| 7 | 理学療法治療学 | 中枢神経系障害学の知識の整理 | グループ |
| 8 | 理学療法治療学 | 中枢神経系障害学の知識の整理 | グループ |
| 9 | 理学療法治療学 | 中枢神経系障害学の知識の整理 | グループ |
| 10 | 理学療法治療学 | 神経筋障害学の知識の整理 | グループ |
| 11 | 理学療法治療学 | 神経筋障害学の知識の整理 | グループ |
| 12 | 理学療法治療学 | 内部障害学の知識の整理 | グループ |
| 13 | 理学療法治療学 | 内部障害学の知識の整理 | グループ |
| 14 | 理学療法治療学 | 運動発達障害学の知識の整理 | グループ |
| 15 | 小テスト | 理学療法治療学に関する理解度を確認する． | グループ |

| 期末試験 | 実施しない | 評価方法 | 筆記試験 100%<br>(卒業試験) | |
|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 【教科書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |
| 【参考書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

| 【本講義に関しての質問先】 | 学科教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |
|---|---|---|---|

| 【科目名】 | 【担当教員】 | 【科目責任者】 |
|---|---|---|
| 総合演習(5/5) | 学科教員 | 佐久間 |

| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学科 | 4 | 後期 | 75(150) | 演習 | 5 |

【授業の概要・目的】

グループ学習を通し，理学療法における知識と技術，及び臨床的思考確立の集大成とする．本講義には卒業試験が含まれる．

| 【学習目標(到達目標)】 | 【受講して得られる力】 |
|---|---|
| ①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る．<br>②理学療法における臨床思考を確立する．<br>③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す | 知識・理解<br>コミュニケーションスキル<br>情報活用能力<br>専門職としてのｽｷﾙ・意識<br>問題解決力 |

【履修上の注意】

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎医学・臨床医学 | 基礎医学・臨床医学に関する知識の応用 | グループ |
| 2 | 基礎医学・臨床医学 | 基礎医学・臨床医学に関する知識の応用 | グループ |
| 3 | 基礎医学・臨床医学 | 基礎医学・臨床医学に関する知識の応用 | グループ |
| 4 | 基礎医学・臨床医学 | 基礎医学・臨床医学に関する知識の応用 | グループ |
| 5 | 基礎医学・臨床医学 | 基礎医学・臨床医学に関する知識の応用 | グループ |
| 6 | 基礎医学・臨床医学 | 基礎医学・臨床医学に関する知識の応用 | グループ |
| 7 | 基礎医学・臨床医学 | 基礎医学・臨床医学に関する知識の応用 | グループ |
| 8 | 基礎医学・臨床医学 | 基礎医学・臨床医学に関する知識の応用 | グループ |
| 9 | 基礎理学療法学<br>理学療法治療学 | 基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用 | グループ |
| 10 | 基礎理学療法学<br>理学療法治療学 | 基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用 | グループ |
| 11 | 基礎理学療法学<br>理学療法治療学 | 基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用 | グループ |
| 12 | 基礎理学療法学<br>理学療法治療学 | 基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用 | グループ |
| 13 | 基礎理学療法学<br>理学療法治療学 | 基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用 | グループ |
| 14 | 基礎理学療法学<br>理学療法治療学 | 基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用 | グループ |
| 15 | 小テスト | 理学療法治療学に関する理解度を確認する． | グループ |

| 期末試験 | 実施しない | 評価方法 | 筆記試験 100%<br>(卒業試験) | |
|---|---|---|---|---|

| 【教科書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |
|---|---|
| 【参考書】 | 各領域における1～3年次科目の教科書 |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

| 【本講義に関しての質問先】 | 学科教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |
|---|---|---|---|

| 【科目名】 | | 【担当教員】 | | | 【科目責任者】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 臨床実習Ⅱ(1/2)<br>※ 実務経験のある教員の授業科目 | | 臨床実習指導者<br>免許を受けた後5年以上業務に従事し指定講習を修了した者 | | | 佐久間 |
| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
| 理学療法学科 | 4 | 通年 | 720 | 実習 | 16 |

【授業の概要・目的】

実習指導者の指導のもと，学内で修得した知識・技術を活かし，評価から治療，ゴール・プログラムの立案，記録という一連の理学療法を実施する.

| 【学習目標(到達目標)】 | 【受講して得られる力】 |
|---|---|
| ①理学療法の対象者に対して，基本的な理学療法をある程度の助言・指導のもとに行える<br>②保健・医療・福祉の各分野における理学療法士の役割と責任を理解し，学生として相応しい態度をとれる<br>③実習を通して，自己の理学療法士としての自覚を向上させることができる | 統合的学習体験<br>問題解決力<br>論理的思考力<br>創造的思考力<br>専門職としてのｽｷﾙ・意識 |

【履修上の注意】

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 病院・診療所における実習Ⅰ期<br>原則として1日の実習時間を8時間として計画する<br>実習終了後，学内発表会を実施<br>(学科教員) | 1)実習指導者の助言・指導のもと，評価・問題点抽出・目標設定・治療プログラムの立案・実施を行い，正確に記録し，他者にわかりやすく伝えることができる<br>2)理学療法の対象者，指導者，職員，すべての人へ謙虚な心を持ちながら応対し，チームの一員として良い人間関係を築くことができる<br>3)指導者の助言・指導や文献をもとに，理学療法士としての知識・技術の向上を図ることができる | 個別・グループ |
| 2 | | | 個別・グループ |
| 3 | | | 個別・グループ |
| 4 | | | 個別・グループ |
| 5 | | | 個別・グループ |
| 6 | | | 個別・グループ |
| 7 | | | 個別・グループ |
| 8 | | | 個別・グループ |
| 9 | | | 個別・グループ |
| 10 | | | 個別・グループ |
| 11 | | | 個別・グループ |
| 12 | | | 個別・グループ |
| 13 | | | 個別・グループ |
| 14 | | | 個別・グループ |
| 15 | | | 個別・グループ |

| 期末試験 | 実施しない | 評価方法 | OSCE 20%<br>実習評価 40% | 課題の達成度 40% |
|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 【教科書】 | 特に指定しない. |
| 【参考書】 | 特に指定しない. |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

| 【本講義に関しての質問先】 | 学科教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |
|---|---|---|---|

| 【科目名】 | | 【担当教員】 | | | 【科目責任者】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 臨床実習Ⅱ(2/2)<br>※ 実務経験のある教員の授業科目 | | 臨床実習指導者<br>免許を受けた後5年以上業務に従事し指定講習を修了した者 | | | 佐久間 |
| 【対象学科】 | 【学年】 | 【開講時期】 | 【回数(時間)】 | 【授業形態】 | 【単位】 |
| 理学療法学科 | 4 | 通年 | 720 | 実習 | 16 |

【授業の概要・目的】

実習指導者の指導のもと，学内で修得した知識・技術を活かし，評価から治療，ゴール・プログラムの立案，記録という一連の理学療法を実施する.

| 【学習目標(到達目標)】 | 【受講して得られる力】 |
|---|---|
| ①理学療法の対象者に対して，基本的な理学療法をある程度の助言・指導のもとに行える. | 統合的学習体験 |
| ②保健・医療・福祉の各分野における理学療法士の役割と責任を理解し，学生として相応しい態度をとれる. | 問題解決力 |
| ③実習を通して，自己の理学療法士としての自覚を向上させることができる. | 論理的思考力 |
| | 創造的思考力 |
| | 専門職としてのｽｷﾙ・意識 |

【履修上の注意】

| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容・目標(使用教材等) | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 病院・診療所における実習Ⅱ期<br>原則として1日の実習時間を8時間として計画する<br>実習終了後，学内発表会を実施<br>(学科教員) | 1)実習指導者の助言・指導のもと，評価・問題点抽出・目標設定・治療プログラムの立案・実施を行い，正確に記録し，他者にわかりやすく伝えることができる<br>2)理学療法の対象者，指導者，職員，すべての人へ謙虚な心を持ちながら応対し，チームの一員として良い人間関係を築くことができる<br>3)指導者の助言・指導や文献をもとに，理学療法士としての知識・技術の向上を図ることができる | 個別・グループ |
| 2 | | | 個別・グループ |
| 3 | | | 個別・グループ |
| 4 | | | 個別・グループ |
| 5 | | | 個別・グループ |
| 6 | | | 個別・グループ |
| 7 | | | 個別・グループ |
| 8 | | | 個別・グループ |
| 9 | | | 個別・グループ |
| 10 | | | 個別・グループ |
| 11 | | | 個別・グループ |
| 12 | | | 個別・グループ |
| 13 | | | 個別・グループ |
| 14 | | | 個別・グループ |
| 15 | | | 個別・グループ |

| 期末試験 | 実施しない | 評価方法 | OSCE 20% | 課題の達成度 40% |
|---|---|---|---|---|
| | | | 実習評価 40% | |

| | |
|---|---|
| 【教科書】 | 特に指定しない. |
| 【参考書】 | 特に指定しない. |

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

| 【本講義に関しての質問先】 | 学科教員 | 【質問方法】 | 教員室にて |
|---|---|---|---|